

B—102

STS教育から見たわが国の総合学習

- 溝辺和成^A, 野上智行^B
 ○ MIZOBE Kazushige^A, NOGAMI Tomoyuki^B
 神戸大学大学院^A, 神戸大学発達科学部^B

総合学習, 明石附小プラン, STS教育, SATISプロジェクト

1. はじめに

神戸大学発達科学部附属明石小学校(以下、附属明石小と呼ぶ)は、及川平治の分団式動的教育法をはじめ、戦後のコアカリキュラムの展開など歴史的にも教育研究の先導的試行を行ってきた。現在も昭和51年及び平成5年に文部省委嘱研究を受け、総合学習を位置づけた教育課程研究に力を注いでいる。

本研究は、附属明石小高学年の総合学習について、STS教育の観点からその特徴を明らかにしようとするものである。

2. 附属明石小の総合学習

附属明石小における総合学習は、次のように定義され、特徴づけられている。⁽¹⁾

子どもたち自らが、身の回り及び地球上に総合的な姿で実在する「ひと・もの・こと」に対して主体的に働きかけることにより、自分の生活や自己のあり方・生き方をより深く認識・表現しようとする学びである。

- 主体性・自主性に支えられた学習
- 体験的な活動を重視した学習
- 個性的な追求が保障された学習
- 問題解決のプロセスをふまえた学習
- 総合的なものの見方・考え方を育てる学習
- 人間としてのあり方や自己の生き方を認識・表現する学習

また単元の設定や構成は、各学年ごとのテーマ、認識基準表、題材選択の主眼点をはじめ、次のような観点に基づいて行っている。

- 探究性 ○ 総合性 ○ 現実性
- 活動性 ○ 開放性

3. SATIS

SATISプロジェクトのねらいは、次のように表現されている。

- ・ 科学、技術そして社会の間の相互作用についての興味を喚起させる。
- ・ 生徒が事実に基づいて討論したり、他の生徒の討論を聞き、判断したりすることを奨励する。
- ・ 読書と理解、データの収集と分析、情報の検索、問題解決、そして意志伝達の技能を含んだいくつかの技能を練習するための機会を与える。⁽²⁾ (抜粋)

4. 考 察

附属明石小の総合学習は、従来の教科学習ではなく、広範囲な学習対象を持ち、多彩なアプローチによる、子どもの生き方形成をねらう学習ととらえられる。そこには、STS教育のような広く科学・技術・社会の関連を対象とし、主体的に自らの考えを構築しようとする考え方を見いだすことができる。また、具体的な展開場面においても、ロールプレイ、討論形式やケース・スタディといったSATISの特徴的な活動と類似した活動を多く見いだすことができる。

<引用文献>

- ⁽¹⁾ 神戸大学教育学部附属明石小学校;「明石附小プラン'89 総合学習の探究と実践」, ぎょうせい, 1989, pp.158-166.
⁽²⁾ Holman, J.; *Science & Technology In Society General guide for teachers*, ASE, 1986, pp.17-18.